

# 音楽療法に理解を南

## 山下教授 実技交え講演 日

県南地域リハビリテーション・広域支援センターによるリハビリ講演会は、日南市のホテルシーズン日南で9月29日

あった。病院や福祉施設関係者、市民ら約80人が音楽療法について理解を深めた。

講師は、宮崎市・宮崎学園短大教授で日本音楽療法学会認定音楽療法士の山下恵子さん。テーマは「病院・施設における音楽療法の可能性」で、遊びや合唱、合奏などの

実技を織り交ぜ、療法の有効性を解説した。

山下さんは「音楽はコミュニケーション・セッションでありキャッチボール。言葉では伝わらないものを伝えられる」と紹介。童謡「秋を全員で歌い」の

「さきのもちつき」という遊びを通して共通の話題を探ったり、「いい湯だな」で合の手を求めたりして、患者に声を出してもらったりで「存在の実感につながる」と強調した。

さらに「心が動く」と身体が動く」として、ボールや布などを渡し合う五感を駆使した遊び（フレイ）を介して緊張と弛緩（しかん）を感じさせ、合奏で交流を図ることに、患者の状態を改善できると締めくくった。

センターは年3回、講演会を開いているが、本年度は口蹄疫発生の影響で今回が初めての開催。



山下恵子教授

実技を交えながら音楽療法の有効性を話す山下さん